

- 本市では、将来に負担を先送りせず、基金に依存する硬直化した財政構造を打破し、持続可能な魅力あるまちづくりを行うため、「財源不足の解消」「基金依存体質からの脱却」「当初予算における経常収支比率100%以下」を目指すべく、箕面市緊急プラン(素案)を平成20年12月に策定しましたが、今回のプランはその4回目の改訂版となります。
- 具体的な改革項目を挙げていたゼロ試案に関しては、平成23年度当初予算及び補正予算をもって全ての項目に結論を出し終わりました。
- ゼロ試案の改革項目に加えて、さらに内部改革をさらに深めていきました。しかし、財源不足解消は平成25年度に目標を達成できる一方、「経常収支比率100%以下」は目標から2年遅れの平成27年度に達成の見込みです。

## 概要及び前回版からの変更点

### ● ゼロ試案全項目での方針決定・新たな改革項目の追加

平成23年度予算において、「ゼロ試案で提案していた改革項目」に関して全てに答えを出しました。

しかし、これだけでは目標達成年度に遅れが出てしまう見込みであったため、改善するため「さらなる内部改革」を実施し、平成23年度当初予算に組み込みました。

#### 【主な「さらなる内部改革」の取り組み】

##### アウトソーシングの推進

市役所本館1階北側の窓口業務(国民健康保険、介護保険等)を総合窓口化して外部委託し、人件費を削減

##### 指定管理者の更新

かやの広場・かやの駐車場の指定管理者の更新により、年間委託料を0円にした上、指定管理者からの納付金による新たな収入を計上

##### 総合契約の導入

総合保健福祉センターとこども急病センターの施設管理委託の契約を市立病院と一括化し、委託料を削減

##### 指定管理施設への特別提案制度の導入

- ・指定管理者の更新にあたり、応募者から「利用者サービスの向上策」や「施設・設備の改善」などに対する自由な提案を求める「特別提案制度」を導入したところ、多様な提案が出された。
- ・これらの提案の採用により、市が負担するはずだった設備の修繕や改善などの費用を指定管理者の負担で行えるため、臨時的な経費を削減することができた。

#### 【特別提案とは】

指定管理者になろうとする事業者から、市民サービスの向上策や設備の充実などについて提案を受ける制度。提案の実現にかかる費用を指定管理者が負担する場合は、本来必要になるはずだった市の経費の節約になる。

(本年度採用した特別提案による設備)

- ・聖苑の家族葬用の式場や、ロビーから式場内が見えるモニター
- ・第一テニスコートの人工芝生化、有料駐車場
- ・箕面文化・交流センターの小会議スペース など

## ● 財政目標の一部達成

以上の取り組みにより、平成25年度当初予算での、①「273億円の財源不足解消」、②「経常収支比率100%以下」という目標に関し、①に関しては予定通りの目標達成の見込みとなりました。

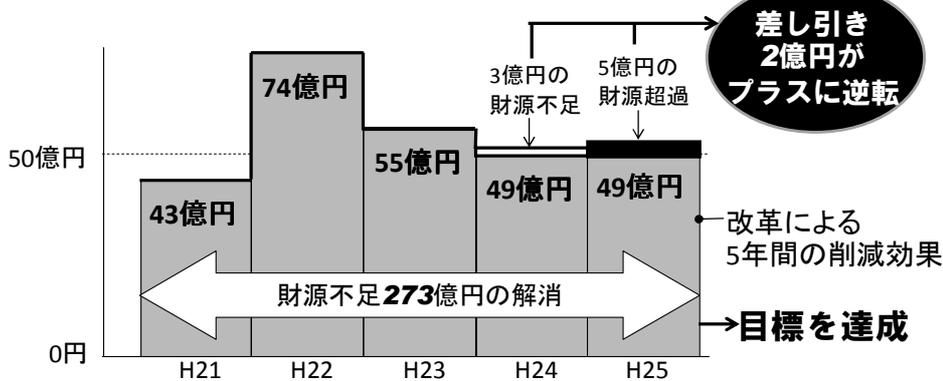
しかし、②に関しては、2年遅れの平成27年度達成の見込みです。

### ① 「273億円の財源不足解消」について

平成23年度予算編成の成果と最新の財政シミュレーションを反映し、さらに、今回方針決定した改革項目の成果見込みなどにより、収支を**72億円**改善しました。

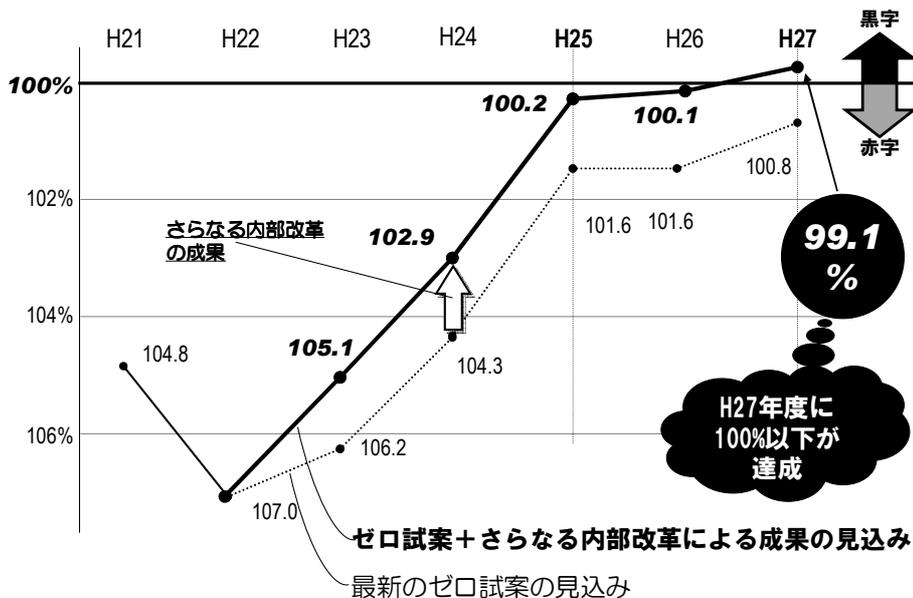
(70億円の財源不足を解消し、さらに**2億円**を基金に積み増すことができます。)

これにより、緊急プラン(素案)策定時に見込んでいた**273億円**の財源不足は、すべて解消できる見込みです。



### ② 「経常収支比率100%以下」について

一方、「経常収支比率100%以下」については、平成27年度に達成見込みです。

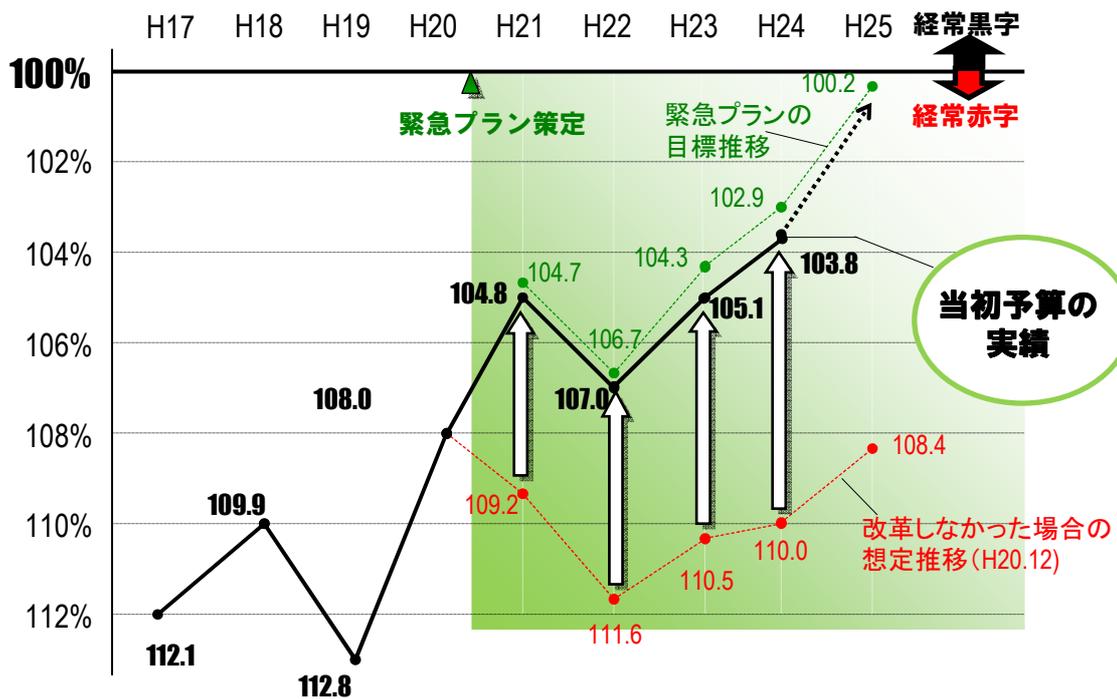


この2年の遅れを巻き返すべく、より一層の内部改革を進め、目標の完全達成を目指していきます。

## 平成24年度当初予算への反映

### ● 平成24年度当初予算における経常収支比率について

平成24年度当初予算における経常収支比率は98.1%に抑えることができたものの、臨時財政対策債を除いた“素”の経常収支比率については、全国的な課題である後期高齢者医療費や生活保護費の大幅な増加により103.8%でとなり、緊急プランの目標である102.9%にはわずかに届きませんでした。



#### 【平成24年度当初予算における内部改革の取り組み】

- 複数の施設管理業務を一括で契約して経費削減を実現する管理業務の総合一括委託
- 税務証明窓口における定型的な業務のアウトソース
- 総合保健福祉センターの障害者ショートステイ室を移転し、定員を3名から8名に増員しつつ、運営を合理化することで経費削減